

編修趣意書

(教育基本法との対照表)

※受理番号	学校	教科	種目	学年
26-35	中学校	技術・家庭	技術・家庭(技術分野)	1-3
※発行者の番号・略称	※教科書の記号・番号	※教科書名		
2 東書	技術 724	新編 新しい技術・家庭 技術分野 未来を創る Technology		

1 編修の趣旨及び留意点

「未来を切りひらき、心豊かにたくましく生きる力」の育成

グローバル化、情報化、少子高齢化など、社会は激しく変化し、また多様化しています。家庭、学校、地域社会といった、生徒を取り巻く身近な環境も同様です。本書は、こうした変化に対応していく「未来を切りひらき、心豊かにたくましく生きる力」を育成することを目指しました。そのために、この力を支える「確かな学力」、すなわち、以下のような「育成したい学力」を掲げて編修しました。

【育成したい学力】

- 生活や社会と技術の関わりについて関心を持ち、意欲を持って生活を改善しようとする態度。また、協同(協働)の学びなどを通して、生命の尊厳や人間関係の大切さ、1人の力だけではできない知の創造に気づき、自ら進んでよりよい人間関係を築こうとする態度。
- 生活におけるさまざまな問題を自分のものとしてとらえ、習得した知識・技術を活用して、生活を工夫したり創造したりする能力。
- 実践的・体験的な学習活動を通して習得する、ものづくりなどに必要な基礎的・基本的な知識・技術。
- 問題解決的な学習や言語活動を通して習得する、科学的、論理的な思考力・判断力・表現力。
- 緻密さや、他者とかかわる力(製作・制作・育成を通じた協調性・責任感など)及び知的財産を尊重する態度、勤労観・職業観などといった、日本のものづくりを支える能力。
- 持続可能な社会を支える技術の役割を理解し、それらの技術を適切に評価し活用する能力。また、環境との調和や社会的な公正の視点による作り手、使い手としての倫理観。

2 編修の基本方針

教育基本法第2条に示された教育の目標を達成し、また、生徒に「編修の趣旨及び留意点」で挙げた6つの「育成したい学力」が身につくよう、5つの基本方針を掲げて編修に取り組みました。(「編修趣意書(学習指導要領との対照表)」参照)

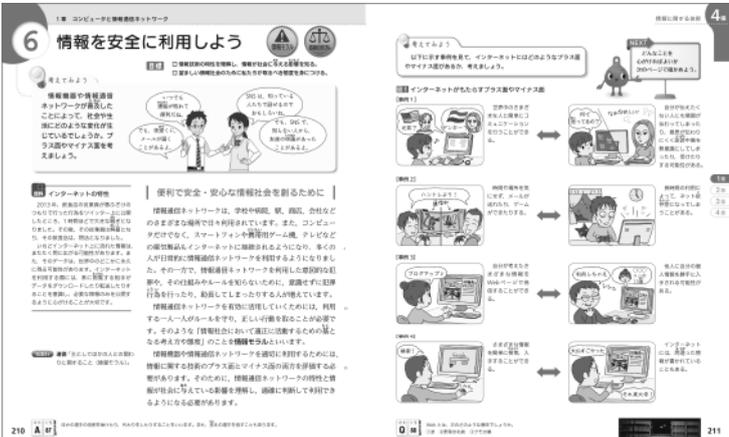
1. 学びやすく、教えやすい教科書
2. 基礎的・基本的な知識・技術が身につく教科書
3. 自ら問題を見つけ、主体的に解決していく力が身につく教科書
4. 学習したことを生活に生かし、創意工夫して未来の生活を創造する力が身につく教科書
5. 現代社会の課題に関心を持ち、持続可能な社会の構築を目指す生徒を育てる教科書

3 対照表

教育基本法第2条第1号-第5号の趣旨を十分に反映すべく、本書を編修しました。

図書の内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
<p>★ 巻頭資料</p> <p>★ 技術分野のガイダンス</p>  <p>▲10-11 ページ</p>  <p>▲14-15 ページ</p>  <p>▲16 ページ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●宇宙開発をテーマに、創造性を培うことの大切さを示しました(第2号)。 ●人類が、夢を実現するために技術を発展させてきたことを示すとともに、日本の技術が世界に貢献していることについても紹介をしました(第5号)。  <p>▲6-7 ページ/技術分野のガイダンス</p> <ul style="list-style-type: none"> ●社会の中でのさまざまな発想や工夫から生まれた商品を紹介し、創造性の大切さを示しました(第2号)。 ●資源、環境、社会と技術との関わりについて紹介し、技術を社会的、環境的、経済的側面から評価しながら発展させていく必要があることを示しました(第4号)。 ●社会の中でのものづくりを紹介し、職業観、勤労観が育成されるように努めました(第2号)。 ●技術の学習は、社会の中でのものづくりと同じように、問題解決的な学習活動であり、技術の学習を繰り返すことによって、将来にわたって必要な問題解決能力を培うことができることを示しました(第1号)。 ●将来の自分たちの姿を示し、技術者あるいは市民として培うべき必要のある、技術を評価し活用する能力の大切さを示しました(第3号)。 	<p>①-②</p> <p>6-7 ページ</p> <p>8-9 ページ</p> <p>10-11 ページ</p> <p>12-13 ページ</p> <p>14-16 ページ</p> <p>14-16 ページ</p>
<p>1 編 材料と加工に関する技術</p> <p>1 章 材料と加工法</p>  <p>2 章 製作品の設計・製作</p>  <p>3 章 材料と加工に関する技術の評価・活用</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ●学習機の製造の例を紹介し、工夫・創造する力や緻密さへのこだわり、他者と関わる力、職業観、勤労観の育成を目指しました(第2号)。 ●「まとめよう」では、加工法を比較させて効率化について考えさせ、技術を適切に評価し活用する能力の育成を目指しました(第3号)。 ●宮大工や、日本古来の漆塗りを現代の塗装に生かした例などを紹介し、日本の伝統・文化を誇りを持って継承していく意義に気づかせるようにしました(第5号)。 ●製作品の製作の場面では、「私の工夫」を設け、製作の際の工夫例を示し、工夫・創造することの大切さを示しました(第2号)。  <p>▲76-77 ページ/実習例</p>  <p>▲81 ページ/私の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ●自分たちの住む地域の間伐材の利用を通して、郷土の文化や環境に目を向けながら製作ができるようにしました(第5号)。 ●技術を環境的、経済的、社会的な側面から評価し、活用していくことの大切さを示しました(第1号、第3号、第4号)。 	<p>18-19, 21 ページ</p> <p>35 ページ</p> <p>61, 73 ページ</p> <p>74-81 ページ</p> <p>81 ページ</p> <p>84-89 ページ</p>

図書の内容・構成	特に意を用いた点や特色	該当箇所
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">2編 ● エネルギー変換に関する技術</p> <p>1章 エネルギーの変換と利用</p>  <p>2章 製作品の設計・製作</p>  <p>3章 エネルギー変換に関する技術の評価・活用</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ●各発電方式の特徴を比較する活動を通して、社会的、環境的、経済的に技術を評価する能力を育成することができるように配慮しました(第3号)。 ●電気エネルギーから他のエネルギーへの変換と利用の学習を通して、環境(エネルギー)、社会、経済など、さまざまな側面から技術を評価する能力が求められていることに目を向けさせ、その能力の育成を目指しました(第3号、第4号)。 ●我が国が誇る技術の1つである新幹線の技術を取り上げ、技術の発展の際に、環境やエネルギーに目を向けることの大切さを示しました(第4号、第5号)。 ●ねじや歯車製造の技術者を紹介し、創造性の大切さを示すとともに、勤労を重んじる態度の育成を目指しました(第2号)。 ●製作品の製作の場面では、「私の工夫」を設け、工夫・創造することの大切さを示しました(第2号)。 <div data-bbox="845 616 1228 862" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>① 走行部と組み合わせる</p> <p>p.134-p.135で作った電気自動車のモジュールを組み合わせたり、ほかの仕組みと組み合わせたりしてみよう。</p>  </div> <p style="text-align: center;">▲137ページ/私の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ●技術を環境的、経済的、社会的な側面から評価し、活用していくことの大切さを示しました(第1号、第3号、第4号)。 	<p>96-97 ページ</p> <p>102-105 ページ</p> <p>112-113 ページ</p> <p>115, 117 ページ</p> <p>130-137 ページ</p> <p>140-145 ページ</p>
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">3編 ● 生物育成に関する技術</p> <p>1章 生物を育てる技術の特徴</p>  <p>2章 生物を育てるための計画と管理</p>  <p>3章 生物育成に関する技術の評価・活用</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ●編の導入では、生物を育てる技術の目的を示すとともに、社会の中で生物育成に携わるさまざまな人々を紹介し、職業観、勤労観の育成を目指しました(第2号)。 <div data-bbox="494 1243 1220 1691" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>3. 生物育成に関する技術</p>  </div> <p style="text-align: center;">▲148-149 ページ</p> <ul style="list-style-type: none"> ●「まとめよう」では、「作物を栽培する技術と工業製品を生産する技術」「動物を育てる技術と植物を育てる技術」「水産生物を育てる技術と植物や動物を育てる技術」を比較することによって、技術を適切に評価し活用する能力の育成を目指しました(第3号)。 ●日本の伝統野菜の例を取り上げ、地域の気候や土壌に合わせて、品種改良を重ねてきたことを示しました(第5号)。 ●技術を環境的、経済的、社会的な側面から評価し、活用していくことの大切さを示しました(第1号、第3号、第4号)。 	<p>148-149 ページ</p> <p>153, 155, 157 ページ</p> <p>163 ページ</p> <p>184-189 ページ</p>

図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">4編 ● 情報に関する技術</p> <p>1章 コンピュータと情報通信ネットワーク</p>  <p>2章 デジタル作品の設計・制作</p>  <p>3章 プログラムによる計測・制御</p>  <p>4章 情報に関する技術の評価・活用</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ● 情報に関する技術では、編全体として、技術のプラス面、マイナス面を常に考える構成とし、技術の適切な評価・活用を意識した構成としました(第1号、第3号)。 ● 「情報の学習を始めるにあたって」では、第1学年での活用も想定し、コンピュータの起動から終了までの注意事項や、インターネットを使ううえで配慮すべきこと、さらに情報モラルについて、具体的に取り上げました(第1号)。  <p>▲194-195 ページ/情報の学習を始めるにあたって</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 「情報セキュリティ技術を知ろう」では、情報社会を生きていくために必要な情報モラルについて、技術的な観点から取り上げました(第1号)。 ● 「情報を安全に利用しよう」では、インターネットや情報機器について、具体例を基に、そのプラス面、マイナス面を考えさせる構成とし、情報モラルの必要性が実感として得られる構成としました(第1号)。  <p>▲210-211 ページ/情報を安全に利用しよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 「デジタル作品における表現」では、情報に関する技術において、誰にとっても分かりやすく表現することの大切さを示しました(第3号)。 ● デジタル作品の制作の場面では、著作権などの知的財産権を意識させる場面を設け、情報社会の中で生きていくために必要な情報モラルが実習の中で身につけられるようにしました(第1号)。 ● デジタル作品の制作や計測・制御の実習の場面では、「私の工夫」を設け、制作の際の工夫例を示し、工夫・創造することの大切さを示しました(第2号)。 ● 技術を環境的、経済的、社会的な側面から評価し、活用していくことの大切さを示しました(第1号、第3号、第4号)。 	<p>192-253 ページ</p> <p>194-195 ページ</p> <p>206-209 ページ</p> <p>210-215 ページ</p> <p>219 ページ</p> <p>224-225 ページ</p> <p>227, 229, 245, 247 ページ</p> <p>250-253 ページ</p>

図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
★ 巻末資料	<ul style="list-style-type: none"> ●「技術分野の学習を終えて」では、さまざまな職業で働く人々の技術への思いを紹介して、職業観、勤労観の育成を目指しました。また、技術を活用する際に、どのようなことに留意すべきか考えさせ、技術を環境的、経済的、社会的な側面から評価し、活用していくことの大切さを示しました（第1号、第2号、第3号、第4号）。 ●生徒たちが生まれた頃の技術と現在の技術を比較させたり、10年後、100年後の未来を予想させたりして、技術をどのように活用していけばよいか考えられるように配慮しました（第1号、第3号）。 ●「技術の歴史」では、世界や日本を変えてきた製品や技術を紹介し、国際社会の発展に寄与する態度が育成できるように配慮しました（第5号）。 	256-257 ページ 258-259 ページ ④-⑥
	<ul style="list-style-type: none"> ●学習機の製造現場で働く人を紹介し、ものづくりにおける責任感や倫理感が育成できるように配慮しました（第1号）。 ●照明器具の開発者を紹介し、工夫・創造することの大切さを伝えるとともに、勤労を重んずる態度の育成を目指しました（第2号）。 ●山に植林する漁師を紹介し、環境の保全に寄与する態度を育てられるように配慮しました（第4号）。 ●社会の中でデジタル作品づくりをしている方々を紹介し、ものづくりの楽しさとともに、制作者としての責任感などを示し、職業観、勤労観の育成を目指しました（第2号）。 	21 ページ 125 ページ 185 ページ 216-217 ページ

4 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色

- ① **関連箇所へのリンク** 学習につながりを持たせ、基礎的・基本的な知識・技術を確実に習得させるために、「リンク」、「他教科」、「小学校」などを設けました。
- ② **安全への配慮** 実習を安全に行ううえで大切な内容には、「安全」「衛生」などのマークを付けて、注意を喚起しました。また、実習上のこつなどについては、「ポイント」マークを付けました。
- ③ **今日的な教育課題への対応** 「環境」、「消費者」、「伝統・文化」「防災」「情報モラル」といった、今日的な教育課題を意識しながら学習が進められるように、右のようなマークを設けました。
- ④ **実験・観察の重視** 体験を通じた学習が有効な場面には、実験・観察を配置し、実感を伴った理解ができるようにしました。
- ⑤ **ふだんの授業で評価・活用** ふだんの授業において技術の評価・活用を意識させる活動として「技術の天びん」を設けました。
- ⑥ **興味・関心を高め、理解と定着を促す工夫** 基本ページには、生徒の興味・関心を高めるとともに、学習の目的をしっかりと理解するための「始めの活動」と学習内容を確認し広がりを持たせる「まよめの活動」を設けて、学習がより定着できるように配慮しました。
- ⑦ **情報化への対応** デジタルコンテンツを活用するとより効果的な場面には、「D マーク」を付けました。また、「コンピュータの使い方」を充実させました（260-270 ページ）。
- ⑧ **発展的な学習** 学習指導要領には示されてはいませんが、必要に応じて幅広く学習できる発展的な内容には、「発展」マークを付けて示しました。

リンク
他教科
小学校

安全
衛生
ポイント

環境
消費者
伝統文化
防災
情報モラル

実験
観察

技術の天びん

始めの活動



考えてみよう 調べてみよう 話し合おう やってみよう

まよめの活動



まよめよう 生活に生かそう

D

発展

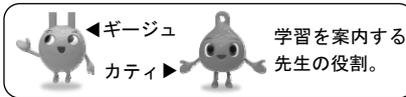
編 修 趣 意 書

(学習指導要領との対照表, 配当授業時数表)

※受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
26-35	中学校	技術・家庭	技術・家庭(技術分野)	1-3
※発行者の番号・略称	※教科書の記号・番号	※教科書名		
2 東書	技術 724	新編 新しい技術・家庭 技術分野 未来を創る Technology		

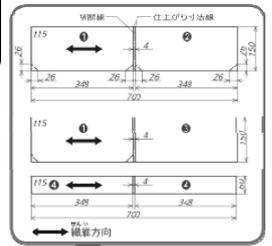
1 編修上特に意を用いた点や特色

1. 学びやすく, 教えやすい教科書

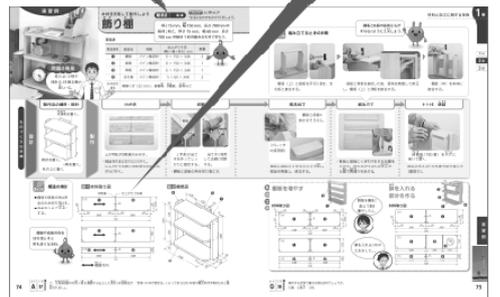


実習例—思わずやってみたくなる魅力的な題材と分かりやすい手順

- ①「材料と加工に関する技術」の実習例では, 材料取り図や組み立て手順を掲載したり, 製作の際につまづきが予想される箇所をポイントで解説したり, 修正方法を提示したりするなどして, 円滑に実習できるように配慮しました (74-81 ページ)。
- ②「生物育成に関する技術」の実習例では, 全ての手順を写真で構成するなど, 一目で作業が分かるようにしました (174-183 ページ)。また, 実態に応じて題材が選べるよう栽培暦を新設しました (160-162 ページ)。
- ③「エネルギー変換に関する技術」や「情報に関する技術」の計測・制御の実習例では, 現実の社会の中で活用されている技術になぞらえて, 実習を進めることができるように工夫しました (134-137, 244-249 ページ)。



▲74-75 ページ/飾り棚



◀182-183 ページ/リーフレタス



145 ページ/エネルギー変換に▶
関する技術の評価・活用しよう

評価・活用のワークシート—授業の形が見える

指導するのが難しいといわれている「技術を適切に評価し, 活用する学習」については, ワークシート例を掲載し, 授業の形が見えるように工夫しました (89, 145, 189, 253 ページ)。



目次・爪—検索性を強化

- ①目次を巻頭に配置し, 学習するページを検索しやすくしました (①-②)。
- ②編, 章, 実習例, 基礎技能ページの爪を右ページの小口に設け, 検索性を強化しました。

爪の例▶

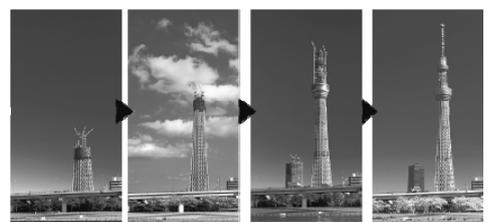


「パラパラ写真」「ひとくち Q&A」—楽しみながら学習

各見開きの右下には, 「パラパラ写真」を設け, 学習への興味・関心を高めさせるようにしました (21, 95, 149, 195 ページ)。

- 1 編 東京スカイツリーができるまで 2 編 てこクラック機構
3 編 ミノマトができるまで 4 編 プロジェクションマッピング

また, 脚注には「ひとくち Q&A」(クイズ形式で学べるちょっとおもしろい豆知識)を用意しています。

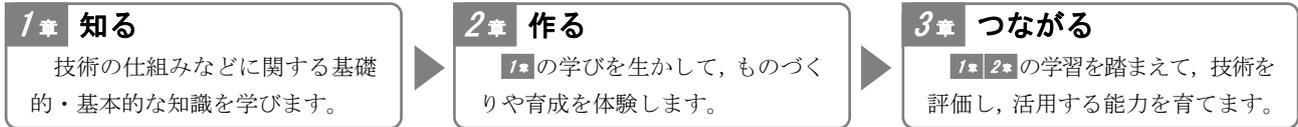


▲1 編/東京スカイツリーができるまで

2. 基礎的・基本的な知識・技術が身につく教科書

章構成と基本ページー知識・技術を確実に習得

①各編章構成は、以下のように統一しました。この学習の順序を繰り返すことによって、基礎・基本が身につきます。



②見開きなどの学習のまとめりごとに「目標」「始めの活動」「まとめの活動」を設け、この構成を繰り返して学習することによって、基礎的・基本的な知識・技術が確実に習得できるようにしました。

学習の目標
見通しを持って、学習に取り組みます。

始めの活動
学習の始めに行う簡単な活動例。学習への意識を高めます。

まとめの活動
学習の終わりに行う簡単な活動例。学習の定着に役立ちます。

20-21 ページ▶

考えてみよう 調べてみよう 話し合おう やってみよう

生活に生かそう まとめよう

基礎技能ーいつでも確認

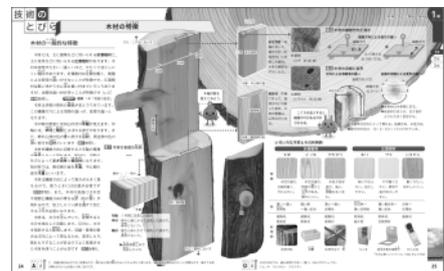
- ①工具の使用方法や作業手順などの基礎的な技能を「基礎技能ページ」としてまとめて掲載したことで、必要なときに常に振り返ることができるようにしました (54-57 ページなど)。
- ②基礎技能や実習例には、「ポイント」や「安全」を付し、製作・制作・育成の際に、基礎技能を安全・確実に習得し、活用できるようにしました (57 ページなど)。



▲56-57 ページ/木材の切断

技術のとびらー学習を深める

「技術のとびら」には、生徒の興味・関心、各学校の実態に応じて、学習を更に深め、科学的な根拠に基づいた理解ができるようにまとめました。ダイナミックな写真で、興味・関心も高めます (24-31, 102-105, 220-221 ページ)。



▲24-25 ページ/木材の特徴

「リンク、他教科、小学校」マークー知識をつなげ定着を図る

- ①「リンク」は、技術分野の各内容や家庭分野の内容と関わりがあるときに、適宜示しました。
- ②「他教科」は、理科、数学、社会、道徳などで学習する内容と関わりがあるときに、適宜示しました。関連性の深い中学校理科は、配当学年も示しました (93 ページなど)。
- ③「小学校」は、技術分野の内容に関わる理科、算数、図画工作などの内容を示しました (19 ページなど)。



3. 自ら問題を見つけ、主体的に解決していく力が身につく教科書

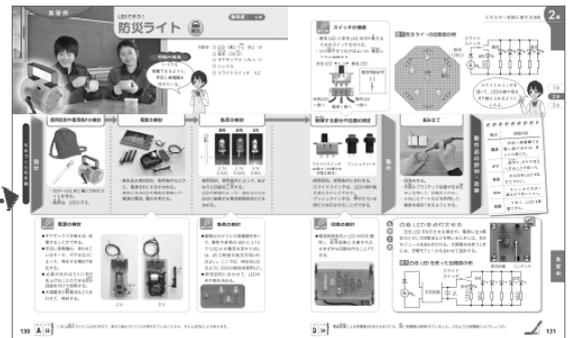
「技術分野のガイダンス」と「技術分野の学習を終えて」－主体的な学習を目指して

- ①「技術分野のガイダンス」を設け、技術分野の学習への興味・関心を高め、3年間の学習の見通しを持たせられるよう工夫しました。大きく3つの内容に分け、技術の大切さや、社会の中で求められる技術、技術の学習で身につけるべき学習内容や能力などを具体的に示し、実態に応じて柔軟に扱えるようにしました（6-17 ページ）。
- ②「技術分野の学習を終えて」を新設し、ガイダンスを受けて、3年間の最後に技術について考えさせるようにしました。社会で働く人を取り上げて、技術の学習が社会の中でも生きていくことを示したり、3年間の技術分野の学習を振り返りながら、未来を展望させたりして、自ら問題を見つけ、解決していく力が大切であることを示しました（256-259 ページ）。

「ものづくりの手順」－問題解決のPDCA サイクル

問題解決の基本となる、計画、実行、評価・改善（PDCA サイクル）の流れを製作・制作・育成の場面でも統一的に示し、ものづくりをしながら、問題解決能力が育成できるように配慮しました（76-77, 130-131, 174-175, 226-227 ページなど）。

PDCA サイクル



▲130-131 ページ／防災ライト

◀14-15 ページ

「問題の発見」－主体的な問題解決に向けて

実習例では「問題の発見」を示し、作るきっかけとなる「問題」例を示しました。生徒が、実習を通して、問題解決ができるように配慮しています。基本ページでも、「材料と加工に関する技術」では、実際に机上を整理するという想定から本文を展開しました（40 ページ）。

問題の発見

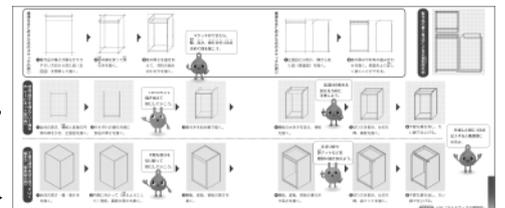
袋栽培で、
一つ一つのイモが
大きくなるように
育てたいな。



製図－言語活動の充実

製図は、技術分野の中での大切な言語活動です。生徒が理解しやすいよう、実際の製作品を例に、製図の仕方を丁寧に示しました（44-49 ページ）。

48-49 ページ／構想した製作品を図に表そう▶



4. 学習したことを生活に生かし、創意工夫して未来の生活を創造する力が身につく教科書

「私の工夫」－創意工夫の力が技術を支える

- ①「技術のガイダンス」で、カッターナイフやステイオンタブなどを例に創意工夫の大切さを示しました（8-9 ページ）。
- ②実習例には、生徒の工夫例である「私の工夫」を新設し、ちょっとした工夫で新しいアイデアが生まれる瞬間を体感できるようにしました（77, 131, 181, 227 ページなど）。



▲75 ページ／私の工夫

「生活に生かそう」－学んだことを生活に生かす

基本ページの「まとめの活動」や、編末の「学習のまとめ」には「生活に生かそう」を設け、生徒が学習したことを自分自身の生活に生かせるように工夫しました（37, 109, 241 ページなど）。

生活に生かそう

取り扱い説明書には、製品の安全利用のために、どのような内容が記載されているか調べましょう。

「技術の天びん」－ふだんの授業でできる評価・活用

対応マークー



▲123 ページ／生活に生かそう

各編末の最終章だけでなく、ふだんの授業から少しずつ評価・活用を繰り返すことにより、着実に評価・活用の能力を育てることができるようにしました（23, 58, 96, 153, 208 ページなど）。

5. 現代社会の課題に関心を持ち、持続可能な社会の構築を目指す人材を育てる教科書

「実習を楽しく安全に進めよう」－生徒の命を守る

対応マークー 

学習の冒頭に、「実習を楽しく安全に進めよう！」として、実習前、実習中、実習後の注意事項を記述しました（2-3 ページ）。また、「安全な作業を心がけよう！」として、各編において安全上特に気をつけるべき事項をまとめて示しました（4-5 ページ）。実習中などの安全な作業の方法や事故防止のポイントには、「安全マーク」を付けて、生徒への注意を喚起しました（33, 63, 109, 125, 173 ページなど）。

「防災手帳、防災マーク」－防災・減災のための日々の備え

対応マークー 

- ①巻末には、卒業後も役に立つ付録として、切り取って組み立てる「技術・家庭科の学習を生かす防災手帳」を設け、学習したことを生かした災害への備えや、防災・減災の技術を紹介しました。
- ②それぞれの内容における、防災・減災対策に関する技術については、「防災マーク」を付け、生徒の意識を高めるようにしました（10, 36, 87, 130 ページなど）。



▲巻末／防災手帳

「環境マーク」－持続可能な社会を目指して

対応マークー 

持続可能な社会の構築を目指して、環境と資源、暮らしの調和の視点から技術を考える内容を掲載しました（10-11 ページ）。また、学習のさまざまな場面で、技術と環境を結びつけて考えられるように、随所に「環境マーク」を付けました（43, 81, 85, 112, 142, 185 ページなど）。

「技術の匠」－働く人の熱い思い

「技術の匠」では、さまざまな職業で働く技術者などを紹介し、ものづくりへの興味・関心を高めるとともに、勤労観、職業観の育成を目指しました（10, 21, 73, 86, 115, 125, 175-183, 185, 188, 216-217 ページなど）。



61 ページ／宮大工▶



▲256-257 ページ／喜んでくれる人のために、技術がある

「伝統・文化マーク」－大切にしたい伝統・文化

対応マークー 

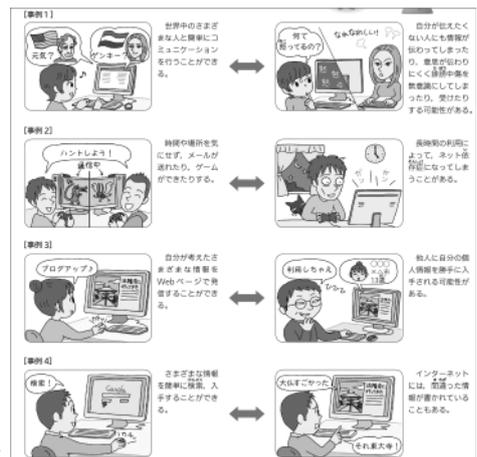
「宮大工」（61 ページ）、「漆塗り」（73 ページ）、「熊本城本丸御殿」（86 ページ）、「日本の伝統野菜」（163 ページ）、「茶運び人形」（234 ページ）など、伝統・文化に関する内容には、「伝統・文化マーク」を付け、紹介しました。

「情報モラルマーク」－技術分野ならではの情報モラル

対応マークー 

情報にまつわる事件や事故が多くなってきている現実を重く受けとめ、情報モラルに関する内容を充実しました。その際、道徳教育との連携を図りつつも、軸足は情報技術のプラス面、マイナス面を比較しながら、情報を選択して活用していくという、技術分野としての情報モラルが育成されるように配慮しました（5, 17, 139, 206, 210-215 ページなど）。

211 ページ／インターネットがもたらすプラス面やマイナス面▶



コンピュータやインターネットなどを活用して学習すると有効な内容には、「D マーク」を付けました（29、95、227 ページなど）。

ユニバーサルデザイン－誰もが使いやすい教科書を目指して

- ①書体はUD フォント(ユニバーサルデザイン書体)を使用しました。文字には欠けやかすれがないように配慮しています。
- ②色覚特性の研究者に校閲を依頼し、全ページにわたって配色およびデザインの検証を行いました。
- ③特別支援教育の視点から、横の流れで統一させた実習例など、読みやすく、見て分かるようにするためにあらゆる工夫をしました。

造本上の工夫－環境に配慮したうえで、使いやすさを追求

- ①地球環境や資源の保全に及ぼす影響を考慮して、再生紙と植物油インキを使用しています。
- ②製本には針金とじよりも環境に優しく開きやすい最新の接着剤 PUR を用いています。堅牢性も十分です。
- ③用紙は、材料や機械、生物などの質感が豊かに表現でき、かつ裏抜けしにくく軽い紙を新規開発して使用しました。

2 対照表

図書の構成・内容	学習指導要領の内容	該当箇所	配当時数
技術分野のガイダンス	A(1)アイ	6-17 ページ	1-3
1 編 ● 材料と加工に関する技術	-----	18-91 ページ	
1 章 材料と加工法	A(2)アイウ/A(3)ア	20-37 ページ	6-11
2 章 製作品の設計・製作	A(3)アイウ/A(2)ウ	38-83 ページ	11-14
3 章 材料と加工に関する技術の評価・活用	A(1)アイ/A(2)ウ	84-89 ページ	1-2
2 編 ● エネルギー変換に関する技術	-----	92-147 ページ	
1 章 エネルギーの変換と利用	B(1)アイウ	94-123 ページ	8-13
2 章 製作品の設計・製作	B(2)アイ	124-139 ページ	7-9
3 章 エネルギー変換に関する技術の評価・活用	A(1)アイ/B(1)ウ	140-145 ページ	1-2
3 編 ● 生物育成に関する技術	-----	148-191 ページ	
1 章 生物を育てる技術の特徴	C(1)アイ	150-157 ページ	3-5
2 章 生物を育てるための計画と管理	C(2)ア	158-183 ページ	5-8
3 章 生物育成に関する技術の評価・活用	A(1)アイ/C(1)イ	184-189 ページ	1-2
4 編 ● 情報に関する技術	-----	192-255 ページ	
1 章 コンピュータと情報通信ネットワーク	D(1)アイウエ	196-215 ページ	5-8
2 章 デジタル作品の設計・制作	D(2)アイ/D(1)エ	216-233 ページ	5-11
3 章 プログラムによる計測・制御	D(3)アイ	234-249 ページ	5-11
4 章 情報に関する技術の評価・活用	A(1)アイ/D(1)エ	250-253 ページ	1-2

※配当授業時数は、各内容を扱う際の最小時数を下限、最大時数を上限として示しています。

※教科の授業時数 87.5 時間（175 時間を技術分野、家庭分野と均等に割り振ることを想定）と、配当授業時数の合計の差は、編の導入や学習のまとめ、資料などの読み物ページなどの時間にあてるとを想定しています。

編 修 趣 意 書

(発展的な学習内容の記述)

※受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
26-35	中学校	技術・家庭	技術・家庭(技術分野)	1-3
※発行者の番号・略称	※教科書の記号・番号	※教科書名		
2 東書	技術 724	新編 新しい技術・家庭 技術分野 未来を創る Technology		

ページ	記述	類型	関連する学習指導要領の内容や内容の取扱いに示す事項
102	LED ランプの発光の仕組み	2	内容B(1)ア…エネルギーの変換方法や力の伝達の仕組みを知ること。
128	暗くなると自動的に点灯する回路	2	内容B(2)ア…製作品に必要な機能と構造を選択し、設計ができること。
129	昇圧モジュール	2	内容B(2)ア…製作品に必要な機能と構造を選択し、設計ができること。
131	白色 LED を点灯させる	2	内容B(2)ア…製作品に必要な機能と構造を選択し、設計ができること。

(発展的な学習内容の記述に係る総ページ数 4)

(「類型」欄の分類について)

- 1…学習指導要領上、隣接した後の学年等の学習内容（隣接した学年等以外の学習内容であっても、当該学年等の学習内容と直接的な系統性があるものを含む）とされている内容
- 2…学習指導要領上、どの学年等でも扱うこととされていない内容